

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	清瀬どろんこ保育園
施設所在地	東京都清瀬市松山3-1-24
法人名	社会福祉法人どろんこ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『光と影』

<テーマの設定理由>

- ・室内、縁側、園庭（樹木下、デッキ下、露天部分）、屋上園庭（屋根あり、屋根なし部分）と広い園内で様々な自然光、人工光に恵まれた多様な環境がある。
- ・中庭の水溜まりに反射した光が縁側の天井にキラキラと映る様子に子どもたちは様々な反応を示したことから、「光と影」を探究テーマに設定した。

2. 活動スケジュール

令和7(2025)年12月～令和8(2026)年3月まで。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 「照明器具(投光器)」 「スクリーン(布製の幕)」 「カラーセロファン」 「画用紙」 (「自然光」)
- ・画用紙で作った枠に多色のカラーセロファンを思い思いに貼り付けた『セロファン虫眼鏡』 『セロファンステンドグラス』を作成。
 - ・曇りの自然光、晴れの太陽光、人工照明と、光を当てる位置によって「投影」「透過」を感じられるようにスクリーンを準備。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【活動1】

- ・暗闇の中での光の見え方を感じることで「光と影」への関心を高める。
- ・屋外の自然光の位置や強さを観察し、カラーセロファンで作ったスタンドグラスが光によってどう見えるかの実験を行う。
- ・影がどの方向にどういう形で見えるのかを観察。

【活動2】

- ・光と影についての絵本を読み聞かせ、光と影への関心を高める。
- ・カラーセロファン虫眼鏡を作り、光を当てるとどうなるか影がどう見えるのかを実験。

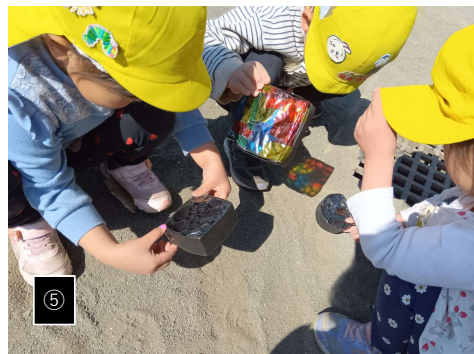
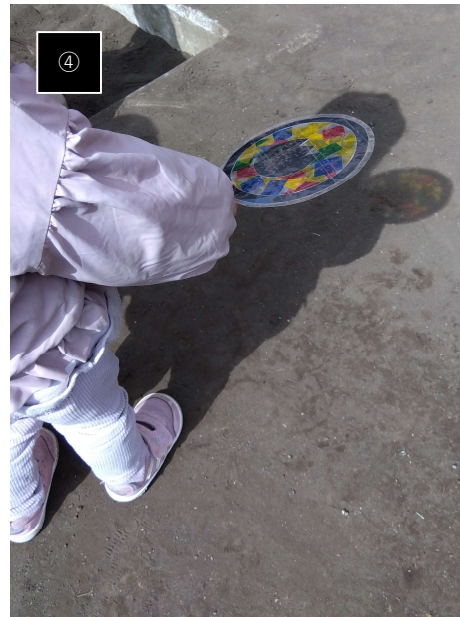
<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【活動1】 問いかけ：「光と影」ってどんなもの？を色々な場所で見てみよう。

- ・押し入れの中に少人数ずつ入り、光の無い暗闇を体験した。懐中電灯を照らすと明るくなり、自分の顔を照らしたり壁を照らしたりして光に向きがあることに興味を示していた。
- ・暗い場所では影が見えないことに気付く児がいた。
- ・明るい屋内では懐中電灯の光があまり明るくないことに気付く児もいた。
- ・陽が差してきた園庭に出て、影がどの方向に見えるかを試しているうちに「影踏み遊び」が始まる。
- ・太陽の場所と逆側に影が出来ることを保育者に教える姿が見られた。

【活動2】 問いかけ：「光や影ってどんな色？」

- ・見本のセロファン虫眼鏡を使って見える光の様子に興味を示していた。
- ・保育者が行う見本の作成を見た後、各児童1人ずつの虫眼鏡型の画用紙に細かく刻んだ4色のセロファンを貼り付ける作業を行った。
- ・出来上がった虫眼鏡を持ち「友達の顔にかざして色が変わる様子を楽しむ」「太陽光で園庭に映る形と色を発見」「屋内人工光(投光器)に照らされて映る形と色、スクリーン布を通して透過する様子」に大きく反応。
- ・光源からの距離の違いで光の強弱や影の濃淡の変化が出ることを発見すると、何度も繰り返して試す姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【活動1】

- ・ 5歳児を筆頭に幼児は興味や発見があると反応が早く、様々なことを試す行動が多彩であった。
- ・ 発見に対する驚きよりも、いろいろな事象を楽しむ姿が印象的。
- ・ 「影踏み」などの遊び行動に展開する力と発想力が旺盛である。

【活動2】

- ・ 乳児中心の活動では、新たな発見や体験に対する反応の仕方に「驚き」があり、次に発見の楽しさから何度も試してみる姿が見られた。
- ・ 自分の影や物が影になる不思議さを知ると、日常の散歩先でも影に対する興味が増し「光の色や影」への関心や発言が増加した。